

・河川関係事業（国土保全関係事業）

1．平成19年度河川関係事業の基本方針

(1)危機管理対策の強化

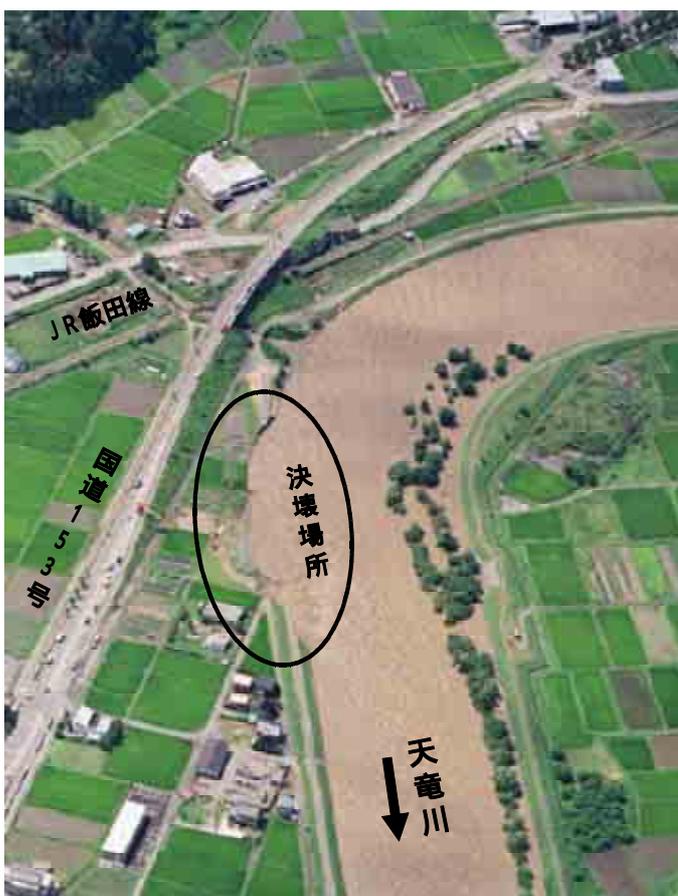
水害・土砂災害への備え

中部地方では、近年、水害や土砂災害が頻発しています。平成16年には、台風21号、22号、23号の相次ぐ来襲にともない、三重県中南部、静岡県東部、岐阜県美濃地方で浸水等の被害が発生しました。

今年7月には、梅雨前線の影響により、諏訪観測所（長野県諏訪市）では、24時間雨量が223mmを記録し、既往最大値を更新しました。

この記録的な豪雨により、天竜川の本川堤防が決壊しました。また、諏訪湖周辺では約2,700戸が浸水し、長野県辰野町、岡谷市等では土石流等により、多くの犠牲者がでました。

また、去年は、米国ニューオリンズ市が、ハリケーン・カトリーナに伴う高潮により、甚大な浸水被害を受けました。ニューオリンズとほぼ同じ面積を有する濃尾平野など、河川の下流部に低平地を有している地域が多い中部地方では、他山の石としなければなりません。



天竜川堤防決壊現場（上伊那郡箕輪町地先）



天竜川上流の土砂災害（岡谷市川岸東地先）



上諏訪駅周辺の浸水状況（諏訪市）

【平成18年7月豪雨による被害状況（長野県）】

洪水や高潮が自然現象である以上、計画的な施設整備を進めるとともに、計画規模を超える自然外力や施設整備途上での災害にも備えていかなければなりません。

このため、発災前から復興までの一連の流れの中で被害を最小化することを目標に、リスクガバナンス¹を再構築し、備災^{びさい}、減災^{げんさい}、克災^{こくさい}²の各段階の対応を充実・強化していきます。中でもソフト対策については、平成18年6月に公表された「安全・安心のためのソフト対策推進大綱」に基づいて推進します。

具体的には、防災施設の計画的な整備、防御機能発揮力の強化（訓練、復旧工法の近代化等）、地域防災力の強化（ハザードマップ、防災教育、NPO等との連携等）を総合的に推進します。

- ・計画的な河川整備、砂防施設の整備を推進

【安倍川左岸「緊特」事業、揖斐川右岸「緊特」事業、日光川放水路「緊特」事業 等】

- ・平成16年に災害が発生した河川における再度災害防止対策の推進

【狩野川小坂排水機場「床上対策」事業、宮川「床上対策」事業、木曾川水系大谷川「床上対策」事業 等】

- ・従来の水防訓練、情報伝達訓練に加えて、複合型災害の防災実動訓練を実施
- ・伊勢湾奥のゼロメートル地帯において、国、地方公共団体、ライフライン施設関係者等からなる東海ネーデルランド高潮地域協議会（仮称）を設立し、大規模地震と計画を超える高潮が同時に発生する等、大規模浸水が生じた場合の被害最小化を図る危機管理行動計画を策定
- ・防災用語を、とるべき行動や具体的な状況を示す語句や危険度のレベルが明確な語句、一般的に使用されている用語、表現、耳で聞いて分かりやすい用語等へ改善
- ・水害・土砂災害や地震に起因する災害が発生した場合の被害状況や避難場所等を示すハザードマップの整備を促進するとともに、各種ハザードマップの一元的提供等による総合化を推進

1：自然災害の被害は、防御施設能力、行政や水防団等の機能発揮能力、住民の認知能力の3つレベルで決まります。リスクガバナンスとは、この3つのレベルを総合的に統治・向上し、被害最小化を図る考え方

2：災害に立ち向かい克服していく自助の力強い姿勢を表現した造語

渇水への備え

近年、全国的な年降水量の平均値は低減傾向にあり、さらに、異常少雨と異常多雨の変動が大きくなる傾向も見られるため、渇水が発生しやすくなっています。

中部地方でも、木曾川水系で、33年間で34回、豊川水系では、33年間で29回など、渇水が頻発しています。

平成17年は、管内13水系中8水系で渇水に見舞われました。特に、木曾川水系では4月～6月中旬にかけて降雨が少なく、過去最大の渇水となった平成6年を上回るペースで渇水が深刻化しました。一部の河川では川に水が流れなくなる「瀬切れ」が発生しました。水道用水では一部地域で公園の噴水の停止、プールの使用中止、工業用水では地下水等への切り替えや、再利用に努める等の措置が実施されました。農業用水では、一部の水田で塩害が発生しました。この渇水では、利水者の節水や平成6年以降に完成した味噌川ダムや長良川河口堰からの補給と7月初旬の降雨により、大きな被害は発生しませんでした。さらに少雨状態が続いた場合には、断水等が発生していたものと想定されます。



平常時



渇水時

【木曾川水系揖斐川の平常時と渇水時状況（安八郡神戸町）】



渇水により、日常生活や産業活動に深刻な影響が想定される地域において、都市用水の安定的な供給と河川環境の保全を図るために、水備蓄施設の整備を推進するとともに、木曾川水系連絡導水路の着工に向けた実施計画調査を進めます。

- ・ 渇水が頻発し不安定な水利用を強いられている地域において、取水を安定化
【設楽ダム建設事業、徳山ダム建設事業、新丸山ダム建設事業 等】
- ・ 異常渇水時においても、断水等の被害を防止・軽減するとともに、河川環境を保全

【徳山ダム建設事業、木曾川水系連絡導水路 等】

大規模地盤・地殻変動に伴う大規模地震への備え

中部地方では将来、東海地震及び東南海、南海地震の海溝型地震の発生が危惧されています。さらに、活断層による直下型の地震もいつ起きてもおかしくない状況です。

地震や火山の噴火、大規模地すべりといった地殻、地盤変動等の地異に対して、生命、財産や産業活動への影響を最小限にするための備えを推進します。

- ・ 大規模地震に対応するため、河川堤防、海岸堤防等の耐震対策、津波対策を推進

【勝間田川「地震・高潮対策」事業 等】

- ・ 地すべりや崖崩れから重要交通網や人命・財産を守るための斜面对策を推進

【由比地区地すべり対策事業 等】

(2)美しい国土形成の強化

戦後60年が経過します。戦後の復興期、高度成長期に日本を支えた社会基盤も、新しい知見の集積を生かして、時代に応じた形で再生していく時期を迎えています。

また、少子高齢化の急速な進展、人口減少社会の到来を踏まえ、子供や高齢者がのびのびと心豊かに暮らせる美しい国土が求められています。

このため、自然の叡智を生かして、日本の故郷である国土を美しく再生していきます。

水系環境の再生

山紫水明という言葉は、天水の流れ下る過程の景色を言い表したもので、日本人の国土観の一つとなっています。しかし、戦後の高密度な都市社会は、水循環系を大きく変貌させました。洪水形態の変化のみならず、水質汚染や表流水減少を引き起こし、自然の叡智を生かして育んできた日本の水文化をも喪失の危機にさらしています。このため、自然の叡智を生かし、水循環系の環境を再生していきます。

また、「なつかしい未来」を目指し、水の持つ修景・親水・生物生息・災害対応・水質浄化・水路交通路・気温上昇緩和機能を活用して、都市の再生を図ります。

- ・閉鎖性水域である伊勢湾（三河湾含む）の再生のため、伊勢湾とその流域における山、川、都市下水道それぞれの取り組みにより、健全な水・物質循環を取り戻し、水質及び生態系の改善・回復を図るとともに、水辺、海辺における人と水とのふれあいの場を整備します。

【堀川河川改修・河川環境整備事業、矢作ダム濁水対策 等】

- ・生物の生息生育環境を守るため、多自然川づくりを推進するとともに、水質の悪い河川・湖沼における水質改善を推進します。

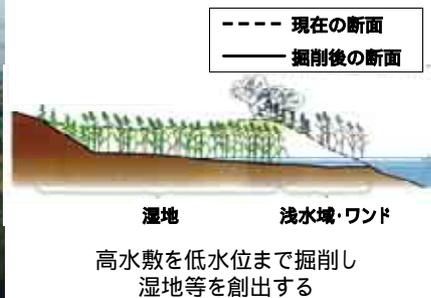
【都田川水系佐鳴湖浄化事業 等】

- ・子供たちが身近な自然に触れ合い、自由に遊べる水辺などの交流、体験学習空間の整備を推進します。【長良川水辺の楽校、天竜川上流座光寺・万年橋

利用推進事業、大河原地区水辺の楽校 等】



洪水流下能力を確保するとともに
かつての環境を創出する
(揖斐川 33～34km付近)



高水敷を低水位まで掘削し
湿地等を創出する

自然再生イメージ



ヘッドロ除去作業状況（堀川）
「名古屋市」



水辺空間の
整備状況（堀川）
「名古屋市」

流砂系の回復

河川は水の循環系と同時に、土砂をはじめとする様々な物質の循環系でもあります。中部地方の河川では、中上流部での、利水ダム等への土砂堆積によるダム機能の低下、下流部での河床低下や、海岸線の後退などの問題が発生しています。

このため、水源から河口・海岸までを視野に入れ、土砂バイパス施設の整備等、総合的な土砂管理を推進します。

・天竜川・遠州灘の総合的な土砂管理

天竜川は、日本の屋根の中央アルプスと南アルプスの間を流下し、遠州灘に注ぎます。川沿いには中央構造線が走り、土砂の発生量の多い川となり、ダム機能の低下が起こっています。

また、遠州灘は、例えば中田島海岸が、日本三大砂丘の一つと言われるほど、天竜川の土砂による砂浜に富む海岸でした。

しかし、戦後復旧のシンボルと言われる佐久間ダムが建設された以降、天竜川の土砂が海岸に供給されず、最近急速に侵食が進んでいます。

このため、洪水時に流出する土砂を、上流のダムに堆積させずにバイパスさせるとともに、佐久間ダムで寸断されている土砂の海岸への補給を回復させます。

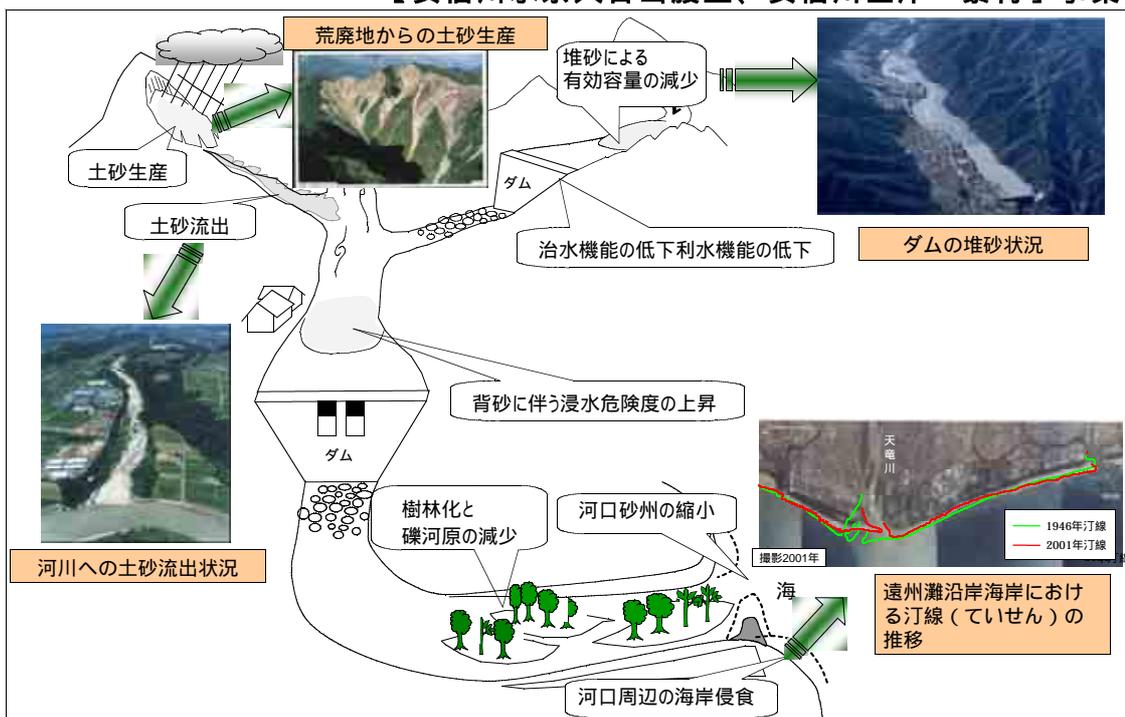
【天竜川ダム再編事業、小浜ダム堰堤改良事業、浜松篠原海岸侵食対策事業】

・駿河の国生みプロジェクト

安倍川左岸から始まる美しく、風光明媚で知られる静岡・清水海岸では、かつて、砂利採取が行われ、供給土砂量が減少し海岸侵食が顕著となりましたが、砂利採取の禁止とともに、美しく綺麗な砂浜が回復しつつあります。しかし、安倍川は、日本三大崩れと称される大谷崩れがあり、多量の土砂が流出し、安倍川の河床が徐々に上昇し、河川の流路を狭め洪水の阻害となっています。

このため、様々な問題が顕在化している駿河湾で、海岸侵食を防いで国土を生み出すとともに、土砂供給源である山の土砂制御並びに河道内の土砂移動・運搬技術の開発を進めます。

【安倍川水系大谷山腹工、安倍川左岸「緊特」事業】



天竜川水系における諸課題